

事務事業評価シート 平成 30 年度事後評価・決算

令和 2 年 2 月 21 日時点

事務事業名		コード	99992	配水管及び施設の整備	予算科目	会計	款	項	目	事業種別	☒ 主な事業
施策体系	基本施策	19		安全・安心な水の供給	根拠法令	水道法					☒ 国土強靱化地域計画
	施策の展開	36		上水道の安定供給	戦略事業	176	配水管及び施設の整備				☒ 新市建設計画
	施策の展開				戦略事業						☐ 定住自立圏構想
											☐ 主要事業

(1) 事務事業の概要

① 事務事業の期間	② 事務事業の内容 ※何をどのようにする事務事業なのか、市民が理解できるよう記述する、行政用語は使わない
☒ 単年度繰返 ☐ 平成 年度～ 年度～ ☒ 開始年度不詳 ☐ 期間限定複数年度 平成 年度～ 年度～ 平成 年度まで	配水管の計画的な布設及び老朽化した施設の改修・更新を行うことにより、水道施設の耐震化を進め災害に強い上水道を整備して行く。 1. 配水管の老朽化に伴う管の更新を行い、漏水の防止を図るとともに耐震管に入替えることにより、災害に強い配水管を整備する。 2. 配水池の増設及び耐震化を行い、適正な容量の確保と災害に強い施設を整備する。 3. 各配水場の配水設備等の修繕及び更新を行い、水道水の安定供給を確保する。
③ 事務事業開始の経緯・事務事業の現状	④ 事務事業に関する課題・環境の変化
水道事業の開始から35年以上が経過している。水道施設においては老朽化も進んでおり、震災時における配水管等の破損が多数発生した。このため、配水管や配水場設備等の水道施設の耐震化及び更新が必要となってきた。	・例年10件程度の漏水が発生している。 ・全ての配水管の耐震化には多大な費用と年月を要する。 ・配水池の一部が耐震化に見合っていない。 ・配水場設備等の老朽化が今後更に進み、修繕費等の増が懸念される。
⑤ 事務事業に対する住民からの意見等	
・漏水の修繕時に断水作業が伴うため、利用者に多大な迷惑をかけてしまう。	

(2) コスト・特定財源の状況

① 事業費の詳細(30年度の決算)		単位:千円
1.工事請負費	18,000	
2.修繕費	22,714	各施設設備の修繕等
3.機械及び装置	41,418	各施設設備の更新等
② 特定財源の内訳(30年度の決算)		単位:千円
1.国庫支出金	0	
2.都道府県支出金	0	
3.地方債	0	
4.その他	4,713	工事に係る一般会計繰入金

事業費	費目内訳	単位	27年度(決算)	28年度(決算)	29年度(決算)	30年度(決算)	31年度(予算)
事業費	1. 工事請負費	千円	31,899	355,436	71,631	18,000	24,540
	2. 修繕費	千円	25,974	45,981	27,091	22,714	36,038
	3. 機械及び装置	千円	3,618	9,720	49,140	41,418	8,437
	事業費計 (A)	千円	61,491	411,137	147,862	82,132	69,015
	1. 国庫支出金	千円	86	2,147	3,330	0	
財源	2. 都道府県支出金	千円					
	3. 地方債	千円	15,600	170,800	70,020	0	
	4. その他	千円	15,600	170,800	23,300	4,713	
	5. 一般財源	千円	30,205	67,390	51,212	77,419	69,015

前年度増減理由	海上配水場耐震化工事の完了に伴う事業量減少のため
---------	--------------------------

従事職員数 常時 2 人 最大 6 人 × 12 日 = 延べ 72 人

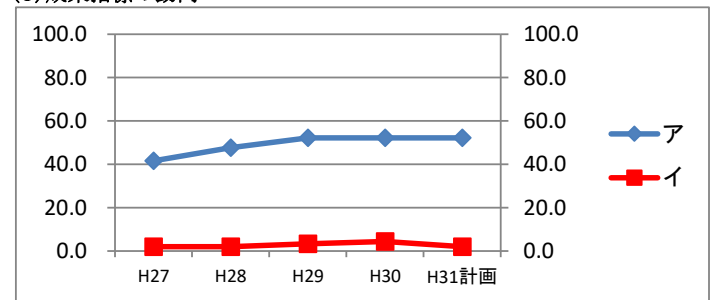
(3) 事務事業の手段・目的と対応する指標

手段	① 主な活動	③ 活動指標名	単位	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(計画)
	30年度実績(30年度に行った主な活動)	ア 配水池耐震化工事	件	1	1	1	1	0
目的	② 対象・意図(対象がどのような状態になるのか)	イ 漏水管修繕及び老朽管更新工事	件	14	14	15	29	12
	対象 配水エリアの水道使用者 意図 配水池の適正な容量を確保するとともに、耐震化を図ることにより水の安定供給を確保する 対象 水道使用者 意図 老朽管を耐震管へ布設替えることにより、漏水等の防止を図り水の安定供給を確保する	ア 配水池耐震化率	%	41.6	47.7	52.2	52.2	52.2
成果		イ 漏水率	%	2.0	2.0	3.3	4.4	2.0

(4) 事務事業優先度評価の結果

①成果優先度評価結果			②コスト削減優先度評価結果					
		成果向上余地			コスト比率			
		かなりある	ある程度ある	ほとんどない	下位1/3	中位1/3	上位1/3	
施策貢献度	大きい				評価結果	①		
	普通		⑤			②		
	小さい					③		
				④⑤			(11)	
				⑥				
				⑦⑧				
				⑨				

(5) 成果指標の動向



(6) 事務事業に関する評価

評価内容	① 進捗状況	☐ 完了 ☐ 順調 ☒ 概ね順調 ☐ 停滞 ☐ 実施困難				
	【コメント】(停滞・未実施・実施困難の場合、その理由)					
	② 成果の状況	成果指標ア	成果指標イ	タイプ	数値増＝成果向上	数値減＝成果向上
	【コメント】(低下の場合、その理由)				☐ 向上 ☒ 横ばい ☐ 低下	☐ 向上 ☒ 横ばい ☐ 低下
	③ 今年度取組事項(31年度に取り組む主な事項について記載)	時期	内容		今後の方向性	成果動向
		令和元年8月	干潟配水場高区配水流量計更新工事		☐ 拡大 ☐ 縮小	☐ 現状維持 ☒ 見直し ☐ 廃止・休止 ☐ その他()
		令和2年3月	現在の「旭市水道ビジョン」を見直し、新たに「旭市水道事業ビジョン」を策定して、今後の整備方針を定めている。			